



題 字  
初代会長 松野盛吉  
定 価 1部 5円  
(購読料は年会費に含む)

発行人  
〒010-0951  
秋田市山王四丁目1番2号  
秋田地方総合庁舎内  
秋田県消防協会  
会長 中泉松之助  
電話 018-867-7320  
FAX 018-863-5910  
<http://www.shoubou-akita.or.jp>  
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷  
〒010-0951  
秋田市山王7丁目5-29  
株式会社 松原印刷社  
電話 018-862-8760  
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

### 年頭の ごあいさつ

財団法人秋田県消防協会  
会長 中泉松之助



平成二四年の新春を迎え、県民の皆様並びに消防職・団員はじめ、消防関係者の皆様に謹んでごあいさつを申し上げます。

消防職・団員及び消防関係者の皆様、日頃から地域住民の生命・財産をあらゆる災害から守るため、日夜献身的に活動し、様々な努力をされていることに対しまして、心より感謝と敬意を表します。

昨年三月、東日本大震災により、私たちは三百名近くの尊い消防の仲間を失ってしまいました。愛する人を、愛する地域を守るための危険を顧みることない献身的な活動は、日本のみならず世界からも賞賛されました。

しかし、消防・防災活動においては、安全にかつ確実に責務を遂行できる環境づくりが必要不可欠であると考えます。

震災以降、安心・安全に寄せる住民の期待はますます大きくなっており、防災マニュアルの見直しをはじめと、総合防災力の向上も喫緊の課題であります。

美しいふるさとを一変させるほどの驚異的な大自然の力を見せつけられ、甚大な被害を受けた東日本大震災から、私たちは多くのことを学び、後世に伝え、今後の活動に繋がっていることが大切であり、今生かされている私たちの責務であると考えます。この経験を活かし、地域住民の負託に応えられるよう、なお一層精進いたします。

さて、全国的に消防団員数の減少により、地域防災力の低下が懸念されているなか、女性消防団員数は年々増加し、様々な分野で女性消防団員ならではの活動を展開しております。

来る一月一六日(金)～一七日(土)には、消防庁・(財)日本消防協会・(財)秋田県消防協会・第一八回全国女性消防団員活性化秋田大会実行委員会の共催で、秋田市において「第一八回全国女性消防団員活性化秋田大会」を開催いたします。

この大会は、女性消防団員が一堂に会し、活動について情報交換し交流することにより、幅広く知識を習

平成二十三年度全国統一防火標語  
消したはず 決めつけしないで もう一度

得し活動をさらに活性化させ、地域住民の安全で安心な暮らしの担い手として地域防災力の向上に貢献することを目的として、毎年各都道府県持ち回りで開催しているものです。

活動事例発表や火災予防啓発劇など、全国の女性消防団員がそれぞれの地域の特性を活かした活動内容を発表される予定ですので、女性消防団員のみならず、皆さんの消防関係者の皆様にご参加いただき、全国の女性消防団員と交流をしていただきたいと思います。

また、各都道府県の参加者を「おもてなしの心」でお迎えし、「秋田らしさ」を実感していただけるような大会にしたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。どうぞ楽しみにしててください。

また、協会では来年度に公益財団法人へ移行すべく様々な準備を進めており、県民への更なる福祉増進に一層寄与する所存でありますので、皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

おわりに、県民の皆様並びに消防関係者のご健勝と、本年が厄災のない良い一年でありますようにお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

# 平成二十四年の 新春を迎えて



秋田県知事

佐竹 敬久



平成二十四年の新春を迎えるにあたり、県内消防関係者の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、各種の災害や事故に際し、地域住民の生命、身体及び財産を守るため、昼夜を問わず第一線で献身的に任務にあたられておりますことに、深く敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

さて、昨年三月に発生した東日本大震災では、各地に甚大な被害がもたらされましたが、そうした中で、県内の各消防本部からは、緊急消防援助隊秋田県隊として、延べ二二三二隊から計七二三名が被災地へ出動し、極めて困難な状況のもとで、消火や救急、救助活動を行っていただいたことに対し、深く敬意を表するものであります。

昨年は、東日本大震災をはじめ、新燃岳の噴火、新潟・福島豪雨、台風一二号及び一五号による大雨など多くの災害が発生し、全国各地に甚

大な被害を及ぼしております。

県内においても、一月からの県南部を中心とした記録的な大雪による被害に加え、六〇八月にかけては、大雨による河川の増水や住家の浸水被害が相次ぎ、各地に深い爪痕を残したことが、記憶に新しいところであります。

このように、相次いで発生する自然災害や地域社会の情勢変化による災害の複雑多様化など、消防防災行政を取り巻く状況は、日々刻々と変化しております。

県といたしましては、県民の安全と安心の確保を見据え、引き続き消防の広域化による、消防・防災体制や救急救命体制の充実強化、住宅用火災警報器の設置促進に取り組むほか、消防団や自主防災組織など、地域における総合的な防災力の強化に向け、各種施策を積極的に推進してまいります。

皆様方におかれましては、県民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、なお一層の御精進と御尽力を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。

結びに、本年が災害のない平穏な一年でありますことを、そして、皆様方の益々の御活躍と御健勝を祈念いたしました。年頭のあいさつとさせていただきます。

# 新年の ごあいさつ



秋田県議会議長

大里 祐一



あけましておめでとうございます。消防関係者の皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様には、日頃より防災の最前線にあつて、いづどこで発生するかわからない災害から県民の生命と財産を守るため、昼夜を分かたず献身的に活動されておりますことに対し、県議会を代表しまして、敬意を表するとともに深く感謝申し上げます。

また、皆様の活動を見守り、支えていただいている御家族の方々に対しまして重ねて御礼を申し上げます。さて昨年は、一月には新燃岳の噴火があり三月には東日本大震災に見舞われ、その後も福島・新潟両県を襲った豪雨、台風一二号・台風一五号による災害等が続き、大規模自然災害が多発した年でありました。改めまして、犠牲になられました方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに被災地の一日も早い復旧・復興

をお祈り申し上げます。

千年に一度とも言われる東日本大震災では、東北地方の太平洋岸を襲った津波により住宅等に未曾有の被害が発生し、また、この津波から地域住民を守るために防潮水門の閉鎖作業や住民の避難誘導の最前線で懸命に活動していただきました。消防関係者の方々をはじめ多くの住民の尊い命が犠牲になりました。今回の大震災を教訓として徹底した検証を行い、ハード・ソフトの両面からこれまでの防災体制を抜本的に見直し、国、県、市町村及び地域防災組織が一体となった新しい防災体制の構築を図るとともに、地域住民一人ひとりがこの体験を活かして自主防災に心がけることが肝要であると存じます。

皆様におかれましては、これまでと同様に「自らの地域は自らが守る」という郷土愛護の崇高な精神と強い責任感を持って、地域住民が安心して暮らせる安全な地域づくりのため、一層の御精進と御尽力を賜りますよう心からお願ひ申し上げます。

終わりに、皆様の益々の御健勝と本年が災害のない平穏な年でありますことを御祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

# 年頭の辞



消防庁長官  
久保 信保



平成二十四年の新春を迎えるに当たり、平素から地域の安心・安全を守るため、昼夜を分

かつたず消防防災活動にご尽力頂いております。全国の消防関係者の皆様にご挨拶を申し上げます。

昨年、東日本大震災は、大地震に加え大津波により多くの尊い人命・財産が失われるとともに、今なお収束を見ていない福島第一原子力発電所の事故が発生するなど、未曾有の大災害となりました。

消防庁といたしましては、地震発生直後から、法制化以来初めてとなる消防庁長官の指示によって緊急消防援助隊を派遣し、岩手・宮城・福島島の被災三県を除く、全国四四都道府県から総数で三万人を超える隊員による献身的な消防活動を実施して頂きました。また、昨年、各地に甚大な被害をもたらした非常に強い台風第一二号・第一五号等の風水害時にも地元消防機関においては、大変目覚ましい活躍を頂いております。

さて、近年の社会経済、生活様式等の変化により、災害等の形態も複雑多様化・大規模化の様相を呈しており、消防防災行政を取り巻く環境は大きく変化し、今以上に、迅速・的確な対応が求められております。

消防庁ではこれまで、緊急消防援助隊の充実強化、消防防災体制の構築等を図って参りましたが、今日の東日本大震災における経験や今後もその発生が懸念される東海・東南海・南海地震あるいは首都直下型地震など大規模地震災害等を踏まえた、更なる消防防災体制の見直し・強化、消防団の活性化、救急・救助の充実・高度化、火災予防・危険物事故防止対策の一層の推進等、各般の施策に積極的に取り組んで参りたいと考えております。

皆様方におかれましては、ますます我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層のご支援とご協力を頂きますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、被災地の一日も早い復興と皆様方のますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

# 新春のご挨拶



財団法人日本消防協会  
会長 高木 繁光



平成二十四年の輝かしい新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。消防団員、消防

職員の皆様、日夜献身的なご尽力をされていることに対し心から敬意を表します。

昨年は、戦後最大の災害となった東日本大震災がございました。この災害における消防団員・職員の懸命の活動は、高い評価を得ましたが、殉職者が二〇〇人を超え、という痛恨極まる事態となりました。

去る一月二十九日、天皇后陛下ご臨席のもと、東日本大震災消防殉職者等全国慰霊祭を執り行いました。両陛下からはご遺族に対し、あたたかいお声をかけて頂き、感激ひとしおでした。

また、各般にわたる被災地への支援活動を実施しましたが、その際に寄せられた全国からのご厚情に深く感謝申し上げます。今回の震災の経験からも、事業

所や住民も含めた地域の総合防災力を高め、その中核となる消防団を充実強化することが益々重要となつていふと思われまふ。日本消防協会では、安全対策を含めた装備や処遇等、消防団の活動環境の整備や団員確保対策に引き続き全力を傾注して参ります。

平成二五年は、消防団一二〇年、自治体消防六五周年の年ですが、消防団に対する国民の理解向上を目指しながら、記念事業の準備を進めて参ります。

最後に、全国の消防関係の皆様の一層のご活躍を衷心よりお祈りして年頭のご挨拶といたします。



# 年頭の ごあいさつ

秋田県市長会会長  
秋田市長  
穂積 志



全県消防関係者の皆様に、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様には、消防技術力の向上と土気の高揚に努められ、地域の平和を守るため、日夜、全力を挙げて取り組んでおられますことに、心から敬意と感謝を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、県南地域を襲った豪雪や夏の大雨、突風により、県内各地に大きな被害をもたらしたことが思い起こされますが、そうした中にも東日本大震災ほど、自然が牙を剥き、世界中の人々を震撼させたものではありません。巨大津波は街を呑み込み、財産やライフラインばかりか、尊くかけがえのない人命をも奪い去りました。私は、自らが被災地を訪れ、その惨状を目の当りにし、この人知を遙かに超えた状況の中で、避難指示や誘導に全力を尽くされた皆様への敬服とともに、命を懸けて使命を果たし、残念にも殉職された大勢の消防関係者の方々がおられることを忘れ

ることはできません。

そしてまた、都市機能が失われ情報も欠如した極度の混乱の中にあつて、共に助け合う心や互いが力を合わせて困難に立ち向かうことの大切さを、改めて思い知らされました。今、本県沖をはじめ東海沖など日本の各地で、遠くない将来、極めて高い確率で巨大な地震が発生することが予測されております。

また、震度五という大きな地震も頻発しております。東日本大震災のさまざまな教訓を活かして、いかに地域の安寧を守り被害を最小とすることができるか、消防に課せられる責務と果たすべき役割は一段と重きを増しております。

各市においては、危機管理体制の強化や住民に対する防災意識の向上に取り組んでおり、市長会といたしまして、防災・災害対策の充実のため、今後とも施設・設備の整備などについて、国に対して適切な措置が講じられるよう働きかけてまいります。どうか皆様におかれましても、時々刻々と変化する社会・自然環境のもと、地域防災の要として、一層のご精進とご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年一月、第一八回目となります女性消防団員の全国大会が、本県で開催されます。多様化する消防団の活動に欠くことのできない女性消防団員が秋田で

# 年頭に あたって

秋田県消防長会  
会長 佐藤 肇



平成二四年の新春にあたり、県内の消防関係者の皆様には謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。

皆様におかれましては、防災の最前線に立つて、火災をはじめとするあらゆる災害と闘い、地域住民の生命、身体、財産を守るため、日夜献身的に活動しておられますことに対し、深く感謝を申し上げますとともに、心から敬意を表します。

昨年を振り返りますと、去る三月一日に発生した東日本大震災では観測史上最大級のマグニチュード九.〇の巨大地震に加え、広範囲にわた

る津波、原子力発電所における事故および石油コンビナート火災を伴う大規模広域複合災害となり、東北地方を中心に住民の生命、身体、財産に甚大な被害をもたらしました。

本県からも緊急消防援助隊として、延べ二二三二隊、七二三名を派遣し、岩手県および宮城県で日夜懸命に活動を行ったところでありました。この地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福を衷心よりお祈りいたしますとともに、被災者の皆様が一日も早く平穏な生活に戻れますことを心より願うものであります。

さて、ここ数年の災害を見てみますと、地震、台風、集中豪雨などの自然災害等の予想しがたい災害が増え、地域住民の消防に寄せる期待はますます大きくなっております。

秋田県消防長会といたしまして、平成二三年度全国消防長会事業計画にも示されているとおり、大規模災害等発生時には、迅速かつ的確な対応が図られるよう広域消防応援体制の充実・強化や、消防機関による防災力だけではなく、地域に存在する統合的な防災力の充実に総力をあげて取り組んでいくことが重要であると考えており、関係各機関との連携強化に努めていくものであります。

結びに、本年が災害の少ない平穏な年であることをご祈念申し上げます。新年のあいさつといたします。

平成二三年度消防団員指導員研修は、一月二六日(土)、二七日(日)の両日、由利本荘市の秋田県消防学校で、二五消防団から二七名が参加して行われた。

研修は幹部の心得や消防団の活性化、訓練礼式、救助活動、応急手当、安全管理などで構成され、受講した



平成二三年度  
消防団員指導員研修  
秋田県消防学校

平成23年度消防団員指導員研修受講者名簿

消 防 団 名	階 級	氏 名
鹿 角 市	班 長	阿 部 克 広
大 館 市	部 長	日 景 一
北 秋 田 市	部 長	吉 田 竹 雄
上 小 阿 仁 村	団 員	古 矢 和 彦
能 代 市	副 分 団 長	七 尾 辰 美
能 代 市	部 長	鈴 木 悟
八 峰 町	分 団 長	長 門 博 英
男 鹿 市	班 長	吉 田 幸 太
八 郎 潟 町	部 長	藤 井 宏 光
井 川 町	分 団 長	伊 藤 澄 男
大 潟 村	副 分 団 長	佐 藤 壽 作
秋 田 市	副 団 長	鈴 木 正
由 利 本 荘 市	副 分 団 長	石 井 忠 幸
に か ほ 市	副 分 団 長	佐 藤 幸 毅
大 仙 市	部 長	佐 藤 勝
大 仙 市	副 部 長	松 井 清 孝
仙 北 市	副 分 団 長	堀 川 清 澄
美 郷 町	分 団 長	中 野 龍 太 郎
横 手 市 増 田	副 分 団 長	佐 藤 富 男
横 手 市 平 鹿	副 分 団 長	細 谷 悦 雄
横 手 市 雄 物 川	副 分 団 長	皆 川 勝 雄
横 手 市 大 森	分 団 長	内 藤 一 秀
横 手 市 十 文 字	副 分 団 長	佐 藤 賢 一
横 手 市 山 内	分 団 長	小 野 寺 千 代 美
横 手 市 大 雄	副 分 団 長	戸 巻 敦 司
湯 沢 市	分 団 長	佐 藤 孝 吉
羽 後 町	副 団 長	瀧 澤 将 史

入校生からは、「救急・AEDの講習は、普段なかなか受ける機会がないので良かった」「住民指導では、一つ一つが具体的に今後の活動に役立つ内容だった」「団員を大切にすることが重要であることが再認識させられた」「地域の防災リーダーとしての役割が今まで以上に重要となる。意識改革となった」との感想が寄せられた。

また、研修に参加した印象は「大変良かった」「一七名、「良かった」が一〇名。講義の内容では「良く分かる」「一四名、「分かる」が一三名となった。」

消防 半天・帯・団旗  
優勝旗・ゼッケン  
手拭・タオル・のれん  
旗幕類名入染物専門

寺 田 染 工 場

横手市清川町 ☎32-0416

トーハツ消防ポンプ  
モリタ自動車ポンプ  
消防被服全般  
秋田県代理店

総合防災設備センター

株式会社 高 義 商 会

(営業種目) トーハツ小型動力ポンプ  
モリタ自動車ポンプ  
ジェットホース  
消防被服全般  
火災報知器各種  
消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32  
TEL(0183)(42)2125  
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕 力 吉

秋田県横手市寿町1番28号  
TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | キンパイホース  
トーハツポンプ | シバウラポンプ  
各種消防機械器具 | 各種消火器  
消防設備保守点検

ホームページ <http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/>  
E-mail [ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp)

# 消防団員入団促進 キャンペーン実施中

一月から三月まで

## 消防団・消防団員とは

消防団は、消防本部や消防署と同様に市町村の消防機関の一つです。消防団員は、本業を持ちながらも「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づいて、地域の安全・安心を確保するために活動する非常勤特別職の地方公務員です。

## 消防団員数は年々減少

本県の消防団員数は、昭和三二年には三万六千人が在籍していましたが、その後、過疎化・少子高齢化の進行、産業・就業構造の変化等に伴い、年々減少し続け、平成二三年は半分の一万八千人となっております。地域における消防防災力の低下が懸念されています。

## 入団促進重点推進事項

### (一) 被雇用者の入団促進

現在の消防団員の約七割が、会社員などの被雇用者です。消防団活動には事業所の協力が不可欠となっております。より一層、事業所との連携強化を図って、従業員の入団促進を進

めていく必要があります。

### (二) 女性の入団促進

消防団員数が減少している中、女性消防団員は増加傾向にあり、本県の女性消防団員数は、平成二三年、二一五名の方が在籍しています。女性消防団員の活動は、火災予防広報、一般家庭や高齢者宅への防火訪問、応急手当の普及啓発活動など多岐にわたっています。

### (三) 大学生等の入団促進

消防団員の高齢化が進む中、若年層の消防団員確保が大きな課題とな

っています。大学生等（専門学校生を含む）の若い力を、消防団活動で発揮していただくことは大変有意義なことです。全国では、一千八百人（平成二三年）の大学生等が消防団で活躍しています。

## 多くの方の消防団入団を期待

消防団は、地域防災の中核的な存在で、地域の安全・安心を確保するために大変重要な組織です。是非、多くの皆様に消防団活動に対する理解を深めていただき、一人でも多くの方に消防団活動に参加いただけることを期待しています。

消防団員のやりがいは、地域に暮らす自分自身が、地域のために働き、身近な人の役に立てること。そして、年齢も職業もさまざまな仲間と出会い、人としても大きく成長していけることにある。例えば災害時には、地域の人々とも連携しあいながら、一緒に乗り越え、さらにまた強い絆を育んでいく。そうやって生まれた「絆」が何よりの宝物。

# 守りたい。地域の絆と、

# 未来に繋がる笑顔。

あなたのちからで救われる人がいる

## 消防団員募集

消防団に関する詳しい情報は、  
<http://www.fdma.go.jp/kyobuden/>  
 消防庁 消防団課 消防団員募集係  
 〒100-8302 東京都千代田区千代田1-1-1 消防庁本庁舎5階505号室  
 TEL (03) 5621-1111 (直通) FAX (03) 5621-1112  
 出願受付時間：午前9時～午後5時

消防庁  
[http://twitter.com/FDMA\\_JAPAN](http://twitter.com/FDMA_JAPAN)

森田 ポンプ  
桜ホース・ソフト吸管  
各種 消火器

ラビットポンプ  
消防被服一式  
消防機器一式

---

株式会社 協  
株式会社 能代消防センター

〒016-0846 能代市栄町12の3  
TEL (0185) (52) 6361  
(52) 6494

地域の防災、災害対策に貢献！

**消 防**

ポンプ自動車  
小型ポンプ  
ホース

**設 備**

火災報知器  
スプリンクラー  
消火器

## 猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL 018 (863) 1551(代)  
猿田興業ビル7F FAX 018 (824) 3651

## 秋田県の消防団員数

## 1. 消防団員数の推移 (平成18年以降)

(各年10月1日現在)

	消防団数 (団)	条例定数 (人)	実団員数 (人)	内 訳 (人、団)					
				男性団員	女性団員		機能別団員		
					団員数	採用団	団員数	採用団	
昭和31年	93		36,174						
平成18年	37	20,779	18,712	18,617	95	7	(未調査)		
平成19年	37	20,434	18,433	18,321	112	11	34	2	
平成20年	33	20,417	18,291	18,167	124	10	49	2	
平成21年	32	20,188	18,196	18,030	166	14	55	2	
平成22年	32	20,166	18,120	17,938	182	16	140	3	
平成23年	32	20,091	17,951	17,736	215	17	163	4	

## 2. 消防団別団員数 (平成23年10月1日)

消 防 団 名	条 例 定 数	実 員	うち		定数充足率	女性団員の 割合
			女性団員	機能別団員		
鹿 角 市	892 人	838 人	22 人	40 人	93.9 %	2.63 %
小 坂 町	190	159	0	0	83.7	-
大 館 市	1,280	1,100	52	0	85.9	4.73
北 秋 田 市	870	768	0	0	88.3	-
上 小 阿 仁 村	120	100	0	0	83.3	-
能 代 市	850	751	13	0	88.4	1.73
三 種 町	507	422	6	0	83.2	1.42
八 峰 町	281	257	2	0	91.5	0.78
藤 里 町	125	121	0	0	96.8	-
男 鹿 市	820	777	4	0	94.8	0.51
潟 上 市	508	471	8	0	92.7	1.70
五 城 目 町	230	197	0	0	85.7	-
八 郎 潟 町	107	87	0	0	81.3	-
井 川 町	160	141	0	0	88.1	-
大 潟 村	52	51	0	0	98.1	-
秋 田 市	2,100	1,977	23	9	94.1	1.16
由 利 本 荘	1,802	1,677	1	91	93.1	0.06
に か ほ 市	595	595	19	23	100.0	3.19
大 仙 市	1,691	1,365	26	0	80.7	1.90
仙 北 市	767	624	10	0	81.4	1.60
美 郷 町	448	408	0	0	91.1	-
横 手 市 横 手	550	458	3	0	83.3	0.66
横 手 市 増 田	289	256	0	0	88.6	-
横 手 市 平 鹿	500	450	13	0	90.0	2.89
横 手 市 雄 物 川	507	464	0	0	91.5	-
横 手 市 大 森	285	245	0	0	86.0	-
横 手 市 十 文 字	550	478	2	0	86.9	0.42
横 手 市 山 内	183	166	0	0	90.7	-
横 手 市 大 雄	234	201	5	0	85.9	2.49
湯 沢 市	1,865	1,696	6	0	90.9	0.35
羽 後 町	513	465	0	0	90.6	-
東 成 瀬 村	220	186	0	0	84.5	-
計	20,091	17,951	215	163	89.3	1.20

